

『国際安全保障』第43巻第1号（2015年6月出版予定）では、「インドをめぐる安全保障問題の現在」と題する特集号を組むことになりました。そこで広く会員の方から原稿を公募し、内容を充実させていきたいと考えております。ふるってご投稿ください。

### 企画趣旨

国際社会におけるインドの存在感が急速に高まってきている。安倍政権のインドへの注目にも見られるように、インドは地域アクターからグローバル・アクターへと変貌を遂げてきた。2014年にはナレンドラ・モディ政権が誕生し、さらに「強いインド」を目指して邁進することが予想される。インドをめぐる安全保障問題は、もはや単なる地域的安全保障の問題として論じられなくなっているようにも見受けられる。このような情勢の進展を受け、国際安全保障の中にインドをめぐる安全保障問題を捉え直すことを試みる。

インドは核兵器保有宣言後、「核ドクトリン」を作成して一定の自制を内外に示すとともに、世界からは事実上核兵器保有国としての認知を受け、諸外国との原子力協力も開始した。そのインドの核戦略とはいかなるものか。またミサイル開発、海軍の増強も進め、国際協力を含む兵器の研究開発にも積極的である。外交面では、1990年代後半に急速に緊密化が進んだ米国との関係は、原子力協定締結後、いくつかの摩擦を経て停滞気味である。印米関係が今後どのように動くかはアジア地域のみならず、グローバルな重みをもつ。中国との関係も当然重要である。

おそらくインドにとって最も深刻な問題はパキスタンを含む近隣諸国との関係であろう。テロ対策、アフガン情勢の影響とそれへのインドの対処、さらにはスリランカ、ネパールなどをめぐる印中のせめぎ合いなど、インドが今後さらなる大国化の道を歩む際に大きなネックとなりかねない。

本号は、こうしたインドを取り巻く安全保障関係を多角的に扱うことを目的とする。以上のさまざまな課題に関するテーマのうち、中国と近隣諸国との関係を除く分野で、論文を広く公募することとなった。以下の要領で数多くの論文をお寄せいただきたい。

### 日程

- 2014年9月30日：応募予定原稿のテーマと概要（400字程度）締め切り  
選考の上、3名ほどの応募者に原稿執筆を依頼
- 2015年2月28日：応募原稿締め切り
- 2015年4月30日：査読、修正等を経た最終原稿締め切り
- 2015年6月末：出版

**原稿** 長さは16,000字程度（図表、注を含む）。

本誌「執筆要領」を厳守のこと。<http://is-japan.org/download/stylesheet20121208.pdf>

### テーマ・概要および原稿提出先

MSワードで作成したファイルを特集編集主任（taka339taka@gmail.com）に送付。ファイル上には、氏名・所属・肩書も明記してください。